

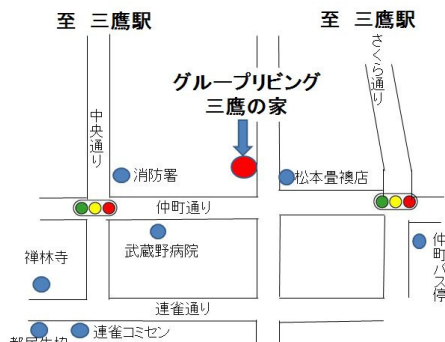
リレートークのご案内

10月30日(月)午後1時30分～
「地域包括支援センターの一週間」
池川 明美さん(三鷹駅周辺地域包括支援センター長)

11月27日(月)午後1時30分～
「老後を誰とどこでどんなふうに暮らしますか?」
井上 由起子さん(高齢者の住まい&暮らしをつなぐ会代表)

12月18日(月)午後3時～(日時注意!)
「タロットカードの見方と読み方/あなたの来年の運勢を無料占い」
ミスティ・ローザ(山内 広美さん・元日本タロット占術協会副会長)

当日会場へおいでください。
会場:みたか・みんなの広場 参加費:200円



みたか・みんなの広場
三鷹市下連雀4-5-19 みたかの家内
連絡先 080-1362-5359 なりきよ

みたか・みんなの広場 催しのご案内

開催日時	テーマ	参加費用	主催・問い合わせ
10月4日(水) 14:00～15:30	みたかオレンジカフェ1(昼どき) 認知症、高齢者介護なんでも相談・茶葉代100円(毎月第1水曜日)		みたか・認知症家族支援の会 石村 ☎080-6627-3551
10月5日(木) 11:00～18:00	足もみ健康法(リフレクソロジー)～感じよう!あなたの身体～ 30分 2000円～(予約優先)(毎月第1木曜日)		中村 080-6507-1959
10月7日(土) 15:00～16:30	鉄ちゃん、集合! 私は乗り鉄、あなたは、振り鉄? 中学生以下100円、大人300円(毎月第1土曜日)		みたか・みんなの広場 鈴木 ☎080-1022-2281
10月5日(木) 11:00～18:00	足もみ健康法(リフレクソロジー)～感じよう!あなたの身体～ 30分 2000円～(予約優先)(毎月第1木曜日)		中村 080-6507-1959
10月14日(土) 13:30～15:00	般若心経カフェ:インドでお釈迦さまが始められた仏教を中心に 仏教全般を考えます。(毎月第2土曜日500円)		みたか・みんなの広場 なりきよ ☎080-1362-5359
10月21日(土) 13:30～15:00	タロット占い:自分自身を見つめ、あしたの自分に進むために 3,000円/30分(毎月第3土曜日、前日までに予約)		日本タロット占術協会 副会長 ミスティ・ローザ ☎080-1362-5359(なりきよ)
10月24日(火) 19:00～21:00	みたかオレンジカフェ2(夕どき) 認知症、高齢者介護なんでも相談・茶葉代100円(毎月第4火曜日)		みたか・認知症家族支援の会 石村 ☎080-6627-3551
10月28日(土) 13:30～15:00	茶話会「病氣とともに生きる」(毎月第4土曜日) 病氣とながよくするじょうずな生活法		HumannLoop“人の輪” 竹内 ☎090-7632-7251
10月30日(月) 13:30～15:00	リレートーク「地域包括支援センターの一週間」 池川 明美さん(三鷹駅周辺地域包括支援センター)		みたか・みんなの広場 なりきよ ☎080-1362-5359
毎週火曜日	マッサージ教室 (外反母趾対策)	主催者までお問い合わせください。	横山(しのやま) 080-9694-5884
毎週土曜日 10:00～12:00	シニアに最適:ノルディックウォーキング (参加無料。レンタルボール有り)	主催者までお問い合わせください。	なりきよ(みたか・みんなの広場) ☎080-1362-5359

NPO法人Humanloop“人の輪”
http://humanloop.web.fc2.com/

みたか・認知症家族支援の会
http://mitakanfs.blog.fc2.com/

三鷹市医療と福祉をすすめる会

NPO法人グレースケア機構
http://g-care.org/

NPO法人日本シニアジョブクラブ
http://jsjc.web.fc2.com/

三鷹科学遊びの会

2017年10月
第41号

みたか 三鷹市民の集いの場
みんなの広場

みたか・みんなの広場運営協議会
三鷹市下連雀4-5-19
http://minnannohiroba.web.fc2.com/
☎080-1362-5359 なりきよ

「私たちがつくる私たちのまち」
高橋 由紀子さん
(三鷹市市民協働センター)



私の仕事の原点は、地域の文庫の活動です。子どもが、たまたま近所にあった文庫に誘われて通うようになったことがきっかけです。文庫の活動というのは、自分の家や地域の拠点でも子どもたちに本の貸し出しをおこなったり、読み聞かせやおはなし会、季節の行事などをする活動で、まだ図書館が少なかった1970年ごろから各地で始まったようです。

そんな小さな文庫活動がきっかけとなって、その後、学校図書館をよりよくしようという全国的な活動にかかわることになりました。今では三鷹市すべての小中学校に司書さんがいらしていますが、かつて、三鷹の図書室には人がいませんでした。1990年に学校の図書室を調べてみようということになって、全部の小中学校にアンケート調査をした結果、図書室は担任を持っている先生が兼務で運営をしていたため、図書の時間以外はほとんど使われず、担当の先生方もなんとかしたいと思っている、ということがわかりました。

その頃、岡山市の小中学校には専任の司書がいて、先生や子どもたちが活発に利用していることを知り、そもそも学校には、なぜ図書室があるのか勉強しようということになりました。その結果、やはり、図書館には司書がいて、ほしい資料が提供されるという機能が必要で、担任の先生が兼務で運営するには限界がある、ということになり、三鷹の子どもたちのために専任の司書を配置してほしいという請願を出すことしたのです。その請願は、文教委員会に付託されて検討した結果、10か月後、全会一致で本会議で採択され、一年後には第一中学校と第一小学校に学校図書館司書が配置されました(2002年に全小中学校に配置完了)。当時の調査で、配置前の貸出数が2年間で66冊だったものが、配置後は9か月で2,500冊の貸出しがあったという記録もあります。

ここで大切なことは、なぜ学校図書館には司書が必要なのかということ。1953年、まだ教室の確保もままならない時期に、「学校には学校図書館を設けなければならない。」という学校図書館法という法律ができました。あんな学校の片隅の小さな部屋のために、わざわざ単独の法律をつくるほどに重要な役割とは何だったのか。学校図書館法には、「この法律は、学校図書館が学校

教育において欠くことのできない基礎的な設備であることにかんがみ、…」と書いてあります。私たちの活動の核になったのは、大阪教育大学名誉教授の塩見昇先生から学んだ、「学校図書館法の根っこは学校教育法の中にある」という言葉でした。さまざまな情報や資料から十分に学ぶことができなかった戦前の教育から、戦後の民主教育になった時に、子どもたちに最も大切なことは、教師が、あらゆる有益適切な教材を使って自由に教育をすすめていくことだったのです。ですから、学校図書館は、子どもたちにとって大事な役割をもつと同じくらい、先生方の授業を支えるための専門的な知識をもった司書さんの配置が不可欠なのです。

その後、国の方でも学校図書館法の改正がいくたびあり、2014年には「学校司書」という言葉が法律にありました。この改正の動きについては、全国の学校図書館にかかわる住民たちのネットワークの力が大きな役割を果たしました。学校図書館も市民の図書館も、私たちが自分たちのまちをつくっていくためのさまざまな判断をするのに必要な情報を提供してくれる、民主主義社会のインフラだと私は思っています。

そんな活動の体験から、「自分たちのまちは自分たちでつくる」ことが大切だと感じていたちょうどその時期に、三鷹市の市民参加の取り組みである「みたか市民プラン21会議」があり、参加することになりました。足かけ3年にわたる、この取り組みは、まったく白紙の状態から市民がまちの基本計画をつくるというもので、大変な作業ではありましたが、たくさんの市民の熱気あふれる議論が交わされる本当に有意義な時間でもありました。

そして、この計画に盛り込まれた「市民活動の拠点がほしい」という意見が反映されてきたのが三鷹市市民協働センターです。協働センターのキーワードは、「つなぐ・ささえる・つむぎだす」です。それぞれのキーワードごとに取り組んでいる事業がありますので、少しご説明したいと思います。

3つのキーワードのうち、「ささえる」は市民活動の支援で、みなさんの活動の参考になる事例の紹介や印刷機・ミーティングのための場所の提供などを行っています。

次に、「つなぐ」ですが、事業例としては、市民活動団体の紹介やトークサロンの開催、そして、センターのおまつりである「わの縁日」があります。また、町会自治会のみなさんとNPO・市民活動団体の連携を支援する「がんばる地域応援プロジェクト」は、全国からの視察のみなさんも関心をもたれる事業です。

「わの縁日」と同様、年に一度の大きなイベントであるシンポジウムは、センターとしてこれから大事になるであろうテーマを考えて企画をしています。これまで、市内企業との連携をテーマにした「うちの会社も市民です」や「ご近所大学こんにちは!」、「商店街は“まちの駅”」など、さまざまな協働をテーマに開催し、その後の協働の広がりがつながりました。2年前には「サードプレイスがまちを変える」をテーマに、大阪應典院住職の秋田さんとシェア奥沢の堀内さんにおいていただいて、楽しい時間を過ごしました。

3つ目のキーワードである「つむぎだす」については、センター開設から10年を経て機能が進化してきた部分です。いまパンフレットも改定をしているところなのですが、以前は「参画(Participation)」と表現していた部分を、新しく、「つむぎだす=co-creation」という言葉に変えました。市民が行政に参画していくという段階から、市民や行政、あらゆる個人や団体がつながりをつくりながら、新しいものをともに生み出す段階にきていてと感じているからです。

例えば、センターで開催した「IT×市民」という事業をきっかけとして生まれた「まちなか農家」という活動とICUの学生さんがコラボして、阿波踊りでブルーベリージュースを販売したのですが、これは、これまで出会うことのなかったITを仕事とするビジネスマンと若手農家、そして学生さんが出会っていくなかでつむぎだされた成果です。

商店街の空き店舗を活用した「みたか スペース あい」も、協働センターと三鷹中央通り商店会、まちづくり三鷹、三鷹ネットワーク大学、三鷹商工会、三鷹国際交流協会、三鷹市の6団体がともに運営を行うことにより、駅前でさまざまな協働の取り組みが生まれるようになりました。

今年の2月にセンターで開催した「子どもが豊かに育つ場とは」という汐見稔幸先生の講演会で、「道路は、かつて子どもたちのものだった。それが高度経済成長期に大人たちの都合で、どんどん奪われていった。」という話を聞いたみなさんの中から、「中央通りで行われているマルシェを利用して、月に1回でもいいから、子どもたちに道路をかえそう」という取り組みも生まれました。



中央通り商店会さんのご協力もあって開催された「子どもマルシェ」は、最後に子どもたちが道路の掃除までして大成功のうちに終わりました。何かやろうとなった時のNPOや市民の機動力は素晴らしいものがあります。これは、行政にはできないことで、まさに市民の力ならではの取り組みでした。

センターに視察にいらっしゃる方の関心が高いものの一つに、「みたか まちづくりディスカッション」があります。これは、2006年に、自治体としては全国で初めて三鷹市が実施した、無作為抽出の市民参加の手法で、その後、全国に広がりました。初めてディスカッションに参加した方がおっしゃった「初めて市民になった気がします」という言葉がとても印象的でした。「まちづくりディスカッション」に参加する市民は、ほとんどが初めての市民参加なのですが、アンケートでも、とても満足度が高い取り組みで、その満足度の中身は、「自分の意見でまちをつくっていくことができる」という実感をもてるところにあると思います。

高度経済成長期は、私たちが消費者として、社会保障も含め、たくさんサービスを受用できた時代でした。けれども、少子高齢社会となり人口が減少していく中で、私たちが消費をしていくばかりでは、社会は持続可能でなくなりました。だからこそ、ますます「協働」は大事になってくると思っています。なぜなら、「消費」はすればするほどなくなるものですが、それとは逆に「協働」は、すればするほど「信頼にもとづく関係性」を生み出すからです。それは、「SocialCapital=社会関係資本」といわれるもので、これが、まさに地域力につながるのです。ですから、協働センターには、そのような豊かな関係性をつくるための「参加」や「対話」「交流」の場をしっかりとつくっていくという重要な役割があると考えています。

そのようなことを考えていますので、これらのことを地域の現場で実践している市民活動のみなさんのことを、私は心から尊敬していますし、「支援する」ということは、何かをやってあげるのではなく、市民の力を信じて発揮するためのお手伝いをすることなのではないかと考えています。ご清聴ありがとうございました。

(8月28日 於みたか・みんなの広場)

みたか・みんなの広場の活動紹介

般若心経カフェ

このサロンの主宰者の基本的な考え方は、
(1) 仏教は生きていく人間のための心構えであって、死者のためのものではないということ、
(2) お釈迦さまと現代の間には、2500年という長い時間とインド、中国、日本という広くて遠い空間があり、いまの日本の仏教がお釈迦さまの仏教とは違うことを前提に考えなくてはならない、ということ。

そして、般若心経をはじめとする大乘仏教のお経は、お釈迦様の仏教(上座部仏教)の悪口を言っている、と実に驚くべきことを指摘します。

このサロンでは、単に般若心経の意味を説明するのではなく、こういった時空を超えた話、あるいは、仏教成立以前からのヒンドゥー教のこと、現在インド教会のトップとして活躍されている佐々井秀嶺師まで、幅広い観点から、仏教ってなんなのかを考えようとしています。



そういうテーマについて、いろいろな参考文献をもとにした話題がサロンの中心です。また、時には、人生の最終事業である死と葬儀の話をしたり、日本仏教の各宗派の違いについての情報もあります。

般若心経カフェ

毎月第2土曜日午後1時30分～
参加費 500円

高齢者見守りキーホルダーのご案内

みたか・みんなの広場は、三鷹駅周辺包括支援センター、雀文庫みたかと提携して、高齢者見守りキーホルダー登録事業の準備をしています。

見守りキーホルダーは、高齢者が外出先で事故に遭遇した場合、対応に必要な情報をすみやかに得られ、十分な対応ができるように、関係先との連絡体制を確保するシステムです。大田区のみまも(高齢者見守りネットワーク)で開発され、現在では全国30カ所以上の地域や自治体で導入されています。

現在、三鷹駅周辺包括支援センターの管内で、この事業を準備中です。これまで詳細についての検討や市高齢者支援課との調整を重ね、11月中旬にスタートする予定です。

【概要】

- ①登録希望者は、駅周辺包括支援センターにおいていただいて必要事項を記入していただきます。
- ②登録費用は500円です。
- ③以降毎年更新登録となります。



【問い合わせ】なりきよ
携帯 080-1362-5359

講演会のお知らせ

歩行と姿勢の改善から認知症の予防まで ～
ノルディック・ウォーク～

基本講演 徳田 武さん

「ノルディックウォークの展開と効果」

株式会社ライフ出版社社長

日本ヘルスプロモーション学会元理事

事例紹介 芝田 電文さん

「医者があきらめた変形性膝関節症患者が歩いた」

全日本ノルディック・ウォーク連盟

指導部講師

*歩けるようになったご本人もおいでになる予定です。

*体験会：当日9時30分 協働センター入口にお集まりください。

三鷹ノルディックウォーク友の会

ウォーキング：毎週土曜日10時～12時

集合場所：井の頭公園または三鷹市市民協働センター

参加費 無料(ポールは本人負担、貸出用ポールあり)

問合せ なりきよ knarikiyo@gmail.com

携帯 080-1362-5359